

まってるすけ高柳

～「魅力的な地域へ」意欲～

高柳町石黒 地域おこし協力隊に辞令交付

柏崎日報(9/4)掲載記事より転載

○市は1日、市内高柳町石黒地区の地域おこし協力隊員として、千葉県市川市の加藤夕恵(ゆめ)さん(39)に辞令を交付した。加藤さんは「石黒は自分のやりたいことがかなう場所。さらに魅力的な地域になるお手伝いをしていきたい」と意欲を見せた。任期は1年で最長3年。市内の協力隊員はこれで3人。

○今年3月に石黒に初めて訪れた。「もともと興味があった織物、染め物、和紙工房、布草履作りなどが高柳にはそろっていた。これらの担い手が高齢化する中、学ぶなら今しかない」と決断。「石黒では『断らない人』が重宝されるといわれ、それなら自分にもなれると思った」と子どもたちと離れ、人生初の一人暮らしに挑戦する。

○同地区では本年度から、加工所「さわらび工房」で糶(こうじ)みそや漬物などの製造・販売を始めた。加藤さんはこれらを手掛けながら「ルバーブジャムやブルーベリーからのジャム、エディブルフラワー(食べられる花)など石黒にないものを育ててみたい」と耕作放棄地の活用も視野に入れる。同県印西市の実家は花や野菜を作る兼業農家で、独立した後も畑を借りるなど、土への愛着は人一倍。このほか農家民宿「田中」への接客なども担う予定だ。

○同地区は黒姫山の南の麓にある7集落からなり、7月末現在31世帯・55人。世話人の田辺須磨子さんは「石黒の財産や課題にすぐ共感してくれた。今まで地域が足踏みしていた部分に彼女のセンスが加わり、『洗練された田舎の食』を発信していきたい」、NPO 法人石黒邑の田辺和幸理事長は「新商品の開発や地域の伝統食の販路を開くことで、小さな経済循環を作りあげることができたらいい」と期待した。

○桜井市長は「それぞれの思いが重なり、この出会いは成功だと実感した。「石黒を含め、高柳町の住民みんなが注目し、期待している」と歓迎した。



上石黒集落センター内のさわらび工房→

裏面もあります